

People and books connect bridge



～人々と本をつなぐ橋～

図書委員会

令和3年度第号外

12月発行

2年生が夏休みに読んだ本を紹介します。印象に残った一文や読みどころを参考に、冬休みに読む本を選んでみてはいかがですか？錦中図書館にある本も紹介されているので、探してみてください。(☆印がついています。)



☆「リリース」草野たき(ポプラ社)

主人公・明良は亡き父の「医者にする・跡継ぎにする」と周囲から期待され、明良自身もその期待に応えようとします。しかし、明良は違う将来の夢を見つけていたので、家族への想い、部活のチームとの絆、そして明良自身の変化がかかれたおもしろい作品です。



☆「また同じ夢を見ている」住野よる(双葉社)

この本はひとりぼっちの少女から始まるお話です。リスカを繰り返す女子高生。アバズレと罵られる女。静かに余生を贈る老婆。4人の女性たちと「彼女」が織りなす不思議な出会いと別れ。少女の成長を描く物語。



「残像に口紅を」筒井道隆(中公文庫)

この作品は少しずつ言葉が消えていきます。具体的に「あ」という言葉が消えれば、「あなた」や「愛」という言葉が使えないということは「君」や「お前」で代用することになります。なので最終的にはどんどん言葉があらくなってくるお話です。



「ナイチンゲール」金井一薫(KADOKAWA)

昔の医療の工夫が、今の世の中の医療に発展していることに、私は魅力を感じました。



「私は私のままで生きることにした」

キム・スヒョン(ワニブックス)

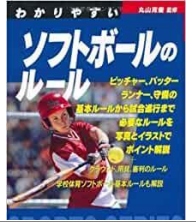
この本は大人向けの本かなと思いますが、この本を読むと考え方が変わって、不安に思っていたことも、それも幸せなんだなと思ったり、心が軽くなります。そのままの自分を大切にすることが大切なんだなと思いました。前向きにさせてくれます。



「わかりやすいソフトボールのルール」

丸山克俊(成美堂出版)

この本はソフトボールをやったことない人でも理解できるように書いてあります。守備、打撃、さらにピッチャー、バッター、ランナーなどとほかの本に負けないくらい詳しく書いてあります。ぜひ、読んでください。



「ティズニーシーであった心温まる物語」

吉田よしか(あさ出版)

作品の魅力は実際にあった話でとても心が温まります。この本を読んだらティズニーのいいところが今まで以上に知ることができます。ストーリーが26に分かれていて、それぞれとてもいいお話なので、ぜひ読んでもらいたいです。



「ぼくらのサイテーの夏」

笹生陽子(講談社)

僕は栗田に階段落ちゲームに負けた上にケガをした。2人はプール掃除をさせられることになる。はじめ2人はお互いのことを全然考えていなかったが、共通点を見つけて仲良くなっていく。心情の変化が楽しめる本。



「卓球メンタル強化メソッド」

平野早矢香(実業之日本社)

僕も卓球をやっていてメンタルが弱く負けてしまっていたときがあったけれど、この本を読んで試合、練習の臨み方やダブルスの関係づくりを学べました。また、「スランプ」はチャンスだと言うことが書いてあり、調子が出ないときも、自分がだめだと思わないことが大切だと思いました。

